

吉野の花見



By the blessings of the gods,
my wish fulfilled —
today I behold
the cherry blossoms of Yoshino.

春、桜の季節がやってきました。

桜のお花見と言えば、豊臣秀吉の「醍醐の花見」が有名ですが
実は、秀吉はその四年前にも「吉野の花見」をしています。

総勢五千人もの人々を連れた、大きなお花見でした。

顔ぶれも大変豪華で、親友の前田利家を始め、徳川家康、伊達政宗など大物揃い。

しかもなんと、彼らにコスプレして参加させています。

秀吉は派手な格好のお茶屋さん、前田利家は巻物屋（行商の本屋）、
伊達政宗は法螺貝まで持参して山伏の格好で参加しました。とても楽しそうですね。

花見は五日間の予定でしたが、困ったことに最初の三日間は雨。

秀吉は激怒してしまい、「雨が止まなければ吉野山に火をかけて即刻下山する」

と同行の僧侶道澄に言い放ちます。道澄は慌てて吉野山の僧侶に晴天祈願を命令し、
僧たちは全山をあげて夜通し祈祷。秀吉も本気なら、僧侶たちも本気です。

その本気が天に届いたのか、翌日無事に晴れたのでした。

秀吉の性格をよく知る前田利家が、ほっとして詠んだ和歌は

千早振る 神の恵みに かなひてぞ 今日み吉野の 花を見るかな
「神様ありがとう、桜を見せてくれてありがとう」という気持ちは
そこにいた人々（特に僧侶たち）の脱力を代弁しているかのようです。

吉野山には三万本もの桜の木があります。これは人々が桜の献木をしてきたため
今でもそれは続いており、自分の名前を桜に植えてもらうことができます。
西行や源義経、松尾芭蕉など歴史上の人々と縁の深い吉野の山。
その中の一本の木が自分の桜だなんて、とても素敵ですね。

（『伊達政宗言行録 木村宇右衛門覚書』

（新人物往来社）小井川百合子編）

花物語

比田井宗玉

